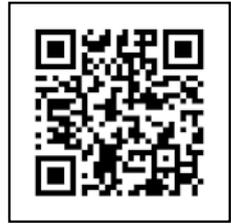


Chino Cultural Community 茅野市公民館報



茅野市中央公民館 ☎72-3266
茅野市宮川4552-2

No.704 発行：長野県茅野市中央公民館 編集：広報専門委員会 印刷：(株)中央企画 発行日：2026年(令和8年)4月1日



ゆきどけ.....	1
分館職員研修会報告.....	2~4
茅野市公民館広報コンクール結果.....	5
令和7年度公民館講座報告.....	6~7
公民館講座受講生募集・諏訪ことば.....	8

モルックに挑戦！（分館職員研修会 詳細は2ページから）



大学生生活を終え地元に戻って来たとき、親父から「消防に入れ」といって一言告げられた。それが私の消防団生活の始まりだった。自分の意思とは言い難い、半ば強制的な入団だったが、今振り返れば、地域コミュニティの中へ自然と入っていく大きなきっかけだったと思う。私の地区には熱い先輩が多く、火事と聞けば誰よりも早く現場へ駆け付け、操法について夜遅くまで語り合い、気が付けば夜が白み始めていたことも一度や二度ではなかった。

そんな消防団も、今まさに変わろうとしている。団員のなり手不足や維持管理費の軽減を目的に、「茅野市消防団総合計画」が策定され、改革は確実に進んでいる。消防団の活動は火災や水害への初動対応、火災予防はもちろん、私の地区では河川の下草焼きにおける延焼防止や、河川暗渠部の清掃など、地域の安全を支える役割を担っている。

地域の若者が減少する中、消防団を存続させていくためには、「入るのが当たり前」という従来の考え方を見直し、誰もが関わりやすい形へと変えていく必要がある。消防団は地域を守る大切な仕組みであり、その価値を次の世代につないでいく工夫が、今まさに求められている。私もあと一年で定年を迎え、悠々自適の生活が待っている。ん？もしかして60歳で再入団？

（長崎 武昭）

第72回 茅野市公民館 分館職員研修会を開催しました

2月15日、茅野市役所を会場に、市内の79分館の役員を中心に約290名にお集まりいただき、「分館職員研修会」を開催しました。

昨年に引き続き、全体で講演会を行い、その後、公民館活動を支える学習、体育レクリエーション（以下体レク）、広報の3つの専門委員会ごとに分科会を開催しました。本号では、研修会の概要についてご報告します。



▲分館職員研修会

講演会

公民館ってなんだろう？ 公民館のあるべき姿

今回の研修会では、参加者全員に対して、「公民館ってなんだろう？」公民館のあるべき姿」と題して白戸洋先生（松本大学総合経営学部観光ホスピタリティ学科教授）からご講演をいただきました。

白戸先生には、昨年9月にも地域づくり講座「学習的手法による地域づくり」として講座を開催しました。（前号にて概要掲載）

講演会の冒頭で、白戸先生は阪神淡路大震災について触れられました。当時、多くの若い人が亡くなられました。近隣の住人との交流もないアパートに住む学生が多くが、建物の倒壊に巻き込まれてもいないこ

とに気づいてもらえず、犠牲となりました。

生死を分ける15分で、自分がいないことに気づいてくれる人が、皆さんの身近にはいるでしょうか。

神城断層地震（2014年）の際の白馬村や、2019年の台風19号で大きな水害に見舞われた長野市長沼地区の住民に奇跡的に死者が少なかったのは、日頃からの地域一丸となつての災害への備え、住民同士の助け合いがあつてこそでした。

地域の人のつながりはとても大事なものです。かと言って、昔の地域が本当によかつたかというところ、まるで監視されていくかのようにすぐには噂や悪口が出回るような嫌なところ、逃げ出したいところも

たくさんありました。昔に戻すのではなく、地域を新しい原理で再構築することが必要です。そのために、白戸先生は「地域をどうするか」を考えるのではなく、自分を真ん中において、「地域でなにをするか」が大切だとお話しされました。

地域で何が課題か、といった大きな問題を考える前に、自分が当面している問題を自分でつちかみ、学習を通してひとりひとりの課題をみんなの課題として共有し、自分で、または自分たちで解決していくことが大事です。



▶白戸洋先生

学習分科会

学習分科会では、講演会に続けて白戸先生を講師として実施しました。

「地域で子どもを育てるためにできること」をテーマに、6〜8人ずつの8つのグループに分かれ、分館の課題も含め自由に意見や感じたことを出し合う場を設定しました。

各グループの発表では、「コロナ禍後、予算と行事と交流する機会が減り、それらはどう作り出すか」「やらされ感の強い役員の多い中、モチベーションをどう保つか」「どの分館も同じような悩みを抱えている」「子育て世代は役員をすると家庭が回らない」等の課題の共有がありました。

また、「子ども・お年寄りだけでなく、現役世代の参加の少なさを打開できたら」「公民館を、相談できる場所になりたい。子どもには大人が楽しくしているところを見てもら



▲学習分科会

える場に行きたら」「公民館活動を通してどうしていきいたのかというイメージがない中だったが、公民館活動を通して子どもたちが戻って来たいと思える場所になれるかというのがゴールなのかもしれないと思った。そのために公民館活動を通して、子どもたちの記憶に残っていくような

ことができれば」「自分は30代だが、これから地区を担ってほしい20代の世代が繋がりを必要としていない。学ぶ機会もなく知らないなので、ただやらされている公民館になってしまふのかなと思った。繋がりが重要であることを若者世代に繋げていければ、地域が活性化していくのではないかと思った」等の意見が出されました。

分科会の最後には、白戸先生から大学での経験を通して、「子どもを育てることって地域の未来を育てることだと思わんです。大人が繋がっていたり、将来のビジョンを持つてないと、子どもたちにもそれを伝えられない。子どもたちにステキな大人がいるんだってことを見せれば、変わっていくような気がします」等のお話をいただきました。

体レク分科会

体レク分科会では、普段スポーツをしない人でも楽しめるニュースポーツを分館活動に取り入れてもらえるよう、モルックと室内ペタンク（ニチレクボール）、ディスクゲッターの実技講習を行いました。

モルックを楽しもう

モルックは、フィンランドの伝統的なゲームを元に開発されたスポーツです。

1から12の数字が書かれた木製のピン（スキットル）を立てて、モルックと呼ぶ棒を投げます。倒したスキットルの本数、または書かれた数字が点数になり、ちょうど50点になったチームの勝利です。50点を超えてしまうと25点に戻されてしまうため、50点が



◀モルックのスキットル

近づくと、どのスキットルを狙うべきか、自然と仲間と声を掛け合うようになり、連帯感が生まれます。昨年の研修会でも実践し、その後多くの分館で実際に取り入れていただきました。

今回参加された方からも、「やってみると意外と白熱した」「戦略があつておもしろい」「分館行事に取り入れてみたい」といった感想をいただきました。

室内ペタンク

(三チレクボール)

を楽しもう！

ペタンクは、2チームに分かれて対戦します。先攻チームがサークルの中からのボール（ビュット）を投げます。先攻・後攻の順にボールを一投ずつ投げ、その後は、ビュットから遠いチームが投げます。それぞれ全てのボールを投げ終わったあと、相手



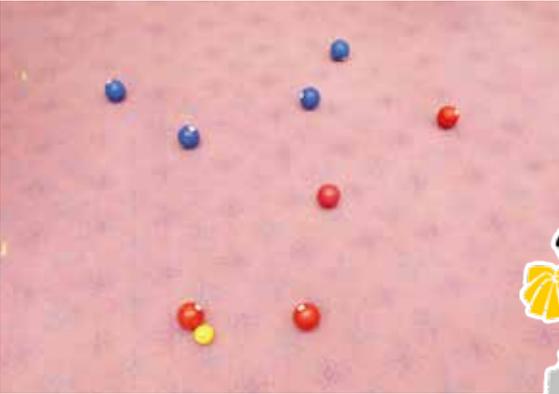
▶ペタンクに挑戦する参加者

の最も近いボールよりビュットに近い自ボールの数だけ得点になります。

何セットか繰り返して、先に13点となったチームの勝利です。

的に向ってボールを投げ、点数を競うという点ではポッチャとも似ていますが、ポッチャほど大きなコートを用意する必要がなく、事前準備を少なく始めることができます。

◀全ボール投げ終わったところ
この場合は
赤チームが3点



ディスクゲッターも

好評でした

9枚の的に向って柔らかい素材のディスクを投げ、得点を競います。

ルールがわかりやすく、小さな子どもにも人気の種目です。

参加者の年齢層等によって、大人と子どもで位置を変えて投げる、利き手と反対の手で投げる、



▲ディスクゲッター

一列ビンゴしたら追加得点など、独自でルールを作って実践してもおもしろいです。

ニュースポーツの用具は、茅野市総合体育館で貸出をしています。貸出状況の確認や用具の借用申込みはスポーツ健康課（電話7218399）までお問い合わせください。

広報分科会

広報分科会では、広報専門委員が講師になり、分館報を発行する上での著作権、肖像権等に関する注意事項等を説明し、広報コンクール参加の分館報等の講評を行いました。（詳細次ページ）



▶広報分科会の様子

公民館報は、「地域に根差した住民のかわら版」です。公民館活動の記録や思い出、同じ地域に暮らしている人々の紹介、地区にまつわる伝説や、地域の課題や生活課題を取り上げること、その年の振り返りや地域の絆を深めることができます。

今回発行された分館報の中でも、ある分館の広報部の方が、分館報とは「単なる行事報告ではなく、地域で重ねられていく日常の暖かさを記録し、未来へと受け渡していく大切な役割を持つている」とコメントを載せたものがありました。

今年も各分館で発行される分館報等が地域の絆をつなぐものになることを期待しています。



令和7年発行茅野市公民館広報コンクール

最優秀賞に中大塩地区合同号！



◀最優秀賞の
中大塩

これまで「分館報コンクール」として開催していたものを、今年度から「茅野市公民館広報コンクール」と改め、要項を見直しました。

新コンクールでは、地域、生活課題を取り上げた学習的要素や、見出しや写真等のインパクト、読みやすい構成など4項目に沿って採点。特に学習的要素への比重を大きくして審査しました。

39の分館等に応募いただいた結果をお知らせします。

最優秀賞 中大塩地区 合同号

中大塩地区は1区から4区分館の合同号として発行されました。

地区の自然や施設を写真とともに紹介したマップや、地区で開催した防災講座のまとめ記事、「中大塩の美しい風景」と題して住民から公募した写真の掲載など、バラエティある内容だったことや、住民を巻き込んだ紙面づくりになっている点が高く評価されました。

優秀賞 高部分館・丸山分館

高部分館は、「高部の好きなところ」「少し心配なところ」などの住民アンケートの結果を載せており、住民の皆さんと地域課題の共有ができていたという点が高く評価されました。

丸山分館は、写真の撮り方・使い方がとても素晴らしく、読

む人の目をひく分館報として他の分館の参考にもなる点や、財産区の歴史についてのまとめ記事が学習的要素として高く評価されました。

奨励賞 塚原分館・安国寺分館 埴原田分館・粟沢分館 金沢分館・柏原分館・ 糸萱分館

新コンクールでは優秀賞までを表彰対象としていましたが、甲乙つけがたいものが多く、審査会の協議により奨励賞としてとりあげました。

昨年国宝指定30周年を迎えた土偶「縄文のビーナス」が出土した埴原田分館は、「おらあゝほうゝの自慢」と題してこの特集記事を大きく掲載。安国寺分館は「村に生きる」シリーズで地元の方のインタビュー記事を掲載するなど、分館役員の方々の熱意とご苦労が伝わってくるようでした。



令和7年度公民館講座実施報告

令和7年度に開催した講座の一部をご紹介します。

茅野学講座

「野外彫刻を“楽しむ”講座」

▶公園内を散策しながら



蓼科湖畔にある蓼科高原芸術の森彫刻公園には、北村西望^{せいぼう}をはじめ昭和を代表する現代作家の作品約70点が展示されています。講師の先生からは「彫刻は作品に感じる一瞬の動きを観る！」こと、「立体造形が他の作品と違うところは、後ろからも鑑賞できる！」ことを教えていただきました。

茅野学講座

「郷土の財産 養川堰を知る」 ようせんせぎ

▶乙女滝にて



講座では大河原堰方面を半日かけてバスでまわり、仕組みや成り立ちを学びました。郷土の偉人坂本養川によって江戸時代に開削される養川堰。郷土の歴史とともに大切に伝えていきたいです。

茅野学講座 「2本の“幻の鉄道”跡を辿る」



▲長倉の橋台



▲芹ヶ沢子ノ社の橋台



▲諏訪鉄山鉄道芹ヶ沢駅跡地にて

当時の歴史を知る人、語れる人も少なくなってきました。講座を受講された方が歴史をつないでくれることを期待しています。

諏訪鉄山鉄道は戦時中、蓼科中央高原で採掘された鉄鉱石を茅野駅まで運ぶために敷設された鉄道です。この鉄道では、転車台を必要とせず前後に走れる小型軽量の機関車（C12型）が使われました。同型の機関車が茅野駅前に保存されています。半年余りの突貫工事で輸送が開始されましたが、終戦により運行できたのはわずか半年余りでした。その後、線路敷は道路として現在のビナスラインの一部になっています。

「佐久諏訪電気鉄道」と「諏訪鉄山鉄道」の跡を辿り、その歴史を学ぶ茅野学講座を初めて開講しました。佐久諏訪電気鉄道は大正時代、佐久と諏訪を結ぼうと計画され、建設途中で中止となった幻の鉄道です。講座では粟沢や芹ヶ沢などに残る橋脚や橋台などを見て回りました。

「佐久諏訪電気鉄道」と「諏訪鉄山鉄道」の跡を辿り、その歴史を学ぶ茅野学講座を初めて開講しました。佐久諏訪電気鉄道は大正時代、佐久と諏訪を結ぼうと計画され、建設途中で中止となった幻の鉄道です。講座では粟沢や芹ヶ沢などに残る橋脚や橋台などを見て回りました。

地域づくり講座

「空き家はやっぱりみんなの課題？」

空き家に関して所有者や隣人だけの問題ではなく、地域で何ができるといふことを考える機会を指して開催しました。

市の空き家対策関連部署の職員、司法書士の先生を講師として招き、空き家バンクや補助制度などの市の取組の紹介や対策の事例紹介等を行いました。参加者からは、「今の自分ができることとして情報を集める、共有するなど地域との繋がりを大切にして自分事として考えたい」といった感想をいただきました。

夏休みこども体験教室

「食べ物スモーク体験&自然の森散策」



▶ 復元住居の中で

夏休み中の親子を対象にダンボールを使ってスモーク体験をしました。食べ物を燻している間は尖石縄文考古館の学芸員に考古館周辺を案内してもらい、復元住居の中の炉の跡を見ながら、縄文時代の人も食べ物を燻製にしていたというお話を聞きました。

「認知症を学び考える」

信州大学出前講座を活用して開催しました。認知症患者数は年々増加し、あと15年もすれば、その患者数は65歳以上人口の46%にも達するだろうと推測されています。

「認知症になったら何もできなくなるのではなく、認知症になってからも一人個人としてできることや、やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間とながらあいながら、希望をもって自分らしく暮らし続ける」という「新しい認知症観」に寄せたお話は、受講生の不安を少なくしてくれるものでした。

「和の伝統文化講座（煎茶・侘茶編）」



▲ 侘茶の心を感じる

4回連続講座の2回は煎茶を、後半2回は侘茶を学びました。「静かな気持ちでお茶を楽しめた」などの感想をいただきました。

「身近な法律講座」 「終活にかかわる“税”の講座」



▲ 税の講座より

法律講座では、相続の開始から遺産分割までの流れや、遺言の作成方法と注意点を説明していただきました。

税の講座では諏訪税務署の職員の方を講師としてお招きし、令和5年度の税制改正を踏まえた相続税と贈与税の内容についても理解を深めることができました。

高齢化が進むなか、法律や制度を知ることが自分や家族の身を護ることもつながります。講座で学び得た知識を、大事な場面での選択や判断に役立てていただけることを願っています。

令和8年度の公民館講座については、毎月の茅野市公民館報で順次お知らせします。ご参加お待ちしております！



公民館講座受講生募集

(キャンセルする場合はできるだけ早めに茅野市中央公民館担当までお申し出ください)

※ 講座を受講するにあたり、手話通訳などを希望される方は申込時にお知らせください。

スマートフォンの基本と防災の講座 ～ 緊急時に知っておきたいアプリの活用法～

災害などの緊急時にスマートフォンはどのように役立つのでしょうか。まずはスマホの使い方に慣れ、避難所の状況確認や家族の安否確認など、最新情報の収集の仕方などを学びます。

日 時	4月27日(月曜日) 午後1時30分～3時
会 場	茅野市中央公民館 2階 学習室
講 師	ソフトバンク講師
受講料	無料
定 員	20名

受講資格

市内在住・在学・在勤の方で、スマートフォンをこれから使われたい方、お持ちのスマートフォンをより活用されたい方

受付開始

3月30日(月)
午前10時～
(電話で先着順)

浮世絵から学ぶ文化と歴史

浮世絵は、その時代の「いま」を伝える絵画です。江戸時代に発達し、人々の興味や関心をひくさまざまなものが描かれています。絵師が手筆で描いた浮世絵(肉筆画)と版を彫って摺り上げた浮世絵(木版画)、2つの技法で描かれた浮世絵が残した文化と歴史を楽しみます。

日 時	5月13日、20日、27日、6月3日(全4回 水曜日) 午前10時～11時30分
会 場	茅野市中央公民館 2階 学習室
講 師	五味 美加 先生(国際浮世絵学会会員)
受講資格	市内在住・在学・在勤者
受講料	1,000円
定 員	10名

持ち物 筆記用具

受付開始

4月15日(水)
午前10時～
(電話またはインターネット先着順)



▲ 申込フォーム

お問い合わせ・申込先 茅野市中央公民館 ☎ 72-3266 (窓口受付は行いません)

お知らせ

令和8年4月1日(水)から、宮川地区コミュニティセンターの事務室を中央公民館に移転します。宮川地区コミュニティセンターにご用の方は、平时午前8時30分から午後5時15分の間にお越しください。

「なから」
魅力的なことで
訪ねてくる？
アンケート
実施中



訪ねてくる？
アンケート
実施中

知っている・使うという人が
87%!

だいたい、ほとんど

「なから」
「ほとんど」
「なから」



なから

知らなかつた! 諏訪言方ことば

協力：八ヶ岳総合博物館、
国立国語研究所
「市民科学」プロジェクト